

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2008

課題番号：19590515

研究課題名（和文） 複数の保健医療福祉系大学によるインタープロフェッショナル臨地実習の教育的効果

研究課題名（英文） A study of educational effects of interprofessional training ward at the universities of health care and social service

研究代表者

大嶋 伸雄 (OSHIMA NOBUO)

首都大学東京・人間健康科学研究科・准教授

研究者番号：30315709

研究成果の概要：

英国の保健医療福祉専門職連携教育（IPE：Interprofessional Education）の概念に基づく効果的なインタープロフェッショナル臨地実習（以下 IP 臨地実習）の枠組みを確立することを目的に、段階的な研究課題を設定して実施した。その結果「IP 臨地実習」の教育的効果が実証されたが、英国の教育環境と専門職制度との比較検討から、わが国の IPE の発展性について多くの課題が明らかとなった。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2008 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学,

キーワード：医学・薬学教育

1. 研究開始当初の背景

現在、わが国の大学における保健医療福祉専門教育は、英国や他の医療先進国の例を見るまでもなく、これまでの専門性偏重型教育から脱却すべき岐路に立たされている。

医療人教育において、専門職としての質的向上を図るために重要な事は、いわゆる脱専門性に根ざした専門性の向上、つまり他職との有機的な連携を視野に入れた高度な判断

能力と柔軟な思考性に他ならない。そのためには一大学、一学部の閉鎖的な教育環境から、他の複数の大学、学部間における多様な専門職教育のノウハウをお互いが共有する専門職連携教育が推奨されており、その教育的効果について国際的にも注目が集まっている。

英国では、2002 年度から全国で保健医療福祉の専門職連携教育（Interprofessional Education, 以下 IPE）における 4 大プロジ

エクトが開始された。これは **Leading edge site** と呼ばれ、各エリアにおける複数の大学間連携が実施されている。中でも最も高いレベルにあるといわれているのが、**University of Southampton** の IPE チームによる **New Generation Project** である。また、**Kingston University** および **St. George's University of London** における専門職連携教育の最終段階にあたる **Interprofessional Training Ward**（複数の専門学生グループによる病棟実習）も高い評価を受けている。

2. 研究の目的

本研究では、英国の **University of Southampton** における IPE 理論に基づいて、3つの保健医療福祉系大学における複数学科の学生がグループで参加するインタープロフェッショナル臨地実習（以下、IP 臨地実習）が実施される。その過程の前後において、IPE が成立した経緯と、IP 臨地実習の根拠ある学生評価について明らかにするため、以下の研究目的を設定した。

(1) IP 臨地実習参加学生における自己の専門性に対する意識の変革と、他職種との相互作用から育まれる多様な問題解決能力がどのように反映されるのかについて、その影響と効果を明らかにするため新たな評価手段である **IPW-Aptitude Test**（連携協働適性検査）を開発する。

(2) IP 臨地実習に参加していない学生群との比較から、IP 臨地実習の教育効果について分析を加える。

(3) 今回開発された「IP 臨地実習」という教育方法が保健医療福祉系大学における連携教育の一環として一般化されるための条件設定、ならびに様々な課題を検討する。

3. 研究の方法

研究初年度にはまず、IP 臨地実習を実施す

るための準備段階として、IP 臨地実習を実施する教員スタッフが専門職連携教育を学習するための機会を設ける。次に IP 臨地実習のための重要な評価指標である、**IPW-Aptitude Test**（連携協働適性検査）のベータ版を作成する目的で、複数の保健医療福祉専門学生で行う IPE 学生セミナーを実施する。セミナーの前後には、アンケートによる学生評価を実施する。アンケート内容は、学生における自己の専門性に対する意識、症例検討における多様な問題解決能力を基盤とし、その後の **IPW-Aptitude Test** の基盤となるものである。さらに、スタッフによる学生グループの経過観察や **VTR** 記録が用いられる。

次に、専門職連携教育および、IP 臨地実習が英国の大学でどのように用いられ、どういった効果を挙げているか、実地調査を行う。本研究で行われる、IP 臨地実習が想定 of 教育効果をもたらす、新しい保健医療福祉教育の手法としてわが国において普及するためには何が必要か、日本と英国の文化的背景、とくに専門職教育の仕組みと考え方における違い、専門職制度そのものの違いなどに焦点を当てて比較分析していく。

研究2年目に、**Interprofessional** 臨地実習（IP 臨地実習）を実施する。実施目的として、IP 臨地実習参加学生における自己の専門性に対する意識の変化がどういった効果をもたらすのかを検証し（多様な問題解決能力、専門性における相互作用の観点から）、その後実施される、IP 臨地実習に参加していない学生群との比較調査から、IP 臨地実習の教育的効果について分析を加える。

研究の実施方法として、首都大学東京健康福祉学部の看護、理学療法、作業療法、放射線の4学科学生と、他大学の医学生、薬学部の混成グループを編成し、合同で5日間の

病院・施設実習（IP 臨地実習）を実施する。

評価には、IP 臨地実習の実施前後に学生に対する一般的アンケートと今回開発された IPW-Aptitude Test を実施する。

その後、IP 臨地実習に参加していない約 80 名の学生を対象に、一般的アンケートと IPW-Aptitude Test を実施し、比較検討を行う。

4. 研究成果

(1) IP 臨地実習を実施するための準備段階として専門職連携教育理論の学習

平成 19 年 7 月、英国の University of Southampton, St. George's University of London の IPE チーム研究者 3 名を首都大学東京へ招へいし、3 大学の教員向け IPE カンファランスと研修会を実施した。

(2) IP 臨地実習を実施するための準備段階：IPE 学生セミナー実施結果

平成 19 年 8 月には、IPE 理論に基づいた症例検討による演習として、症例を中心としたシナリオベースのグループによる検討シミュレーションを行う、IPE 学生セミナーを開催した。対象は看護学科、理学療法学科、作業療法学科、放射線学科の学生、および医学生、薬学部生、合計 26 名で、セミナーの前後にアンケートによる学生評価を実施した。アンケート内容は、他の専門性に対する知識と役割の捉え方、自身の専門性に対する意識、症例を評価し、対処方法を検討する際に必要となる多様な問題解決能力を基盤とし、その後の IPW-Aptitude Test 作成の基盤となるものであった。さらに、スタッフによる学生グループの経過観察、VTR 記録が用いられた。

以上の結果、学生自身の専門以外への視野の拡大、他専門職への興味関心の向上、コミュニケーションによって得られた相互作用による学習刺激などの効果が確認された。

(3) 英国大学への訪問調査

平成 19 年 9 月に英国の連携教育で著名な 4 大学（University of Southampton, St. George's University of London, Oxford Brooks University, University of East Anglia）を訪問調査し、IP 臨地実習関連の資料・データを情報収集した。主な調査結果のうち、University of Southampton の New Generation Project について記す。

① New Generation Project までの経緯と概要について

New Generation Project(以下 NGP)は、University of Southampton が IPE をいかに進めるかを検討する過程で、1999 年に立ち上がったプロジェクトである。この構想が拡大して、University of Southampton と近隣の Portsmouth 大学の教育共同体、および両大学がある Hampshire & Isle of Wight 地域の Workforce Development Cofederation(継続的教育のための高等教育と NHS の協働推進組織)とが協力して推進することになった。

この NGP を推進する上でカリキュラムの作成、大学間の調整、実習現場との調整、実習室の管理、学生評価および教育効果研究などの中核を担っているのが Health Care Innovation Unit (HCIU) である。このプロジェクトの特徴は、現場で勤務する現職者が Facilitator として多数関わることにある。1 学年で約 1,500 名の学生が各 10 名ずつのグループに割り振られるが、各グループ毎に Facilitator が 1 名必要となるため、その総数は 150 名にもなる。Facilitator には現職者の他に、大学のスタッフもいるが、全ての Facilitator はプロジェクトが主催する 3 日間の Facilitator Workshop を修了している必要がある。

② New Generation Project のカリキュラム Unit1 から Unit 4 まであり、学年の進行に

そってそれぞれの Unit を受講する。それぞれの Unit は各2週間ずつで、学生は現場の Facilitator から Facilitate を受けながら、その現場の課題について調査し、最終的に変革のための提言を行う。

③ New Generation Project における教育効果の検証

量的調査と質的調査に分けて実施されている。まず、量的調査では、NGPがまだ、開始されていない2002-2003年度の入学生、約1,000名とNGPが始まった2003-2004年度の入学生1,200人を対象に実施されている。異なる経験をした学生が、卒業時、および卒業後の実践でどのような差異が生じるのか、それぞれの先行研究を基に分析がなされたという。質的研究として、Unit1を受講した1,500人から、性別と専門性を考慮して抽出したリフレクションシートを質的に調査する。主として「学生の体験」と「学生の学び」について調査が実施され、「意見を述べる」「専門性の自覚」「チームワーク」で非常に有効とされている。

(4) IPW-Aptitude Test (ベータ版) の作成

IP 臨地実習における評価では、わが国の保健医療福祉制度と実際の臨床場面を想定した新しい評価尺度が必要となる。

IPW-Aptitude Test (連携協働適性検査) は、英国における調査と IPE 学生セミナーのデータをもとに作成させた。

IPW-Aptitude Test は、一つの症例提示を行い、質問形式により、次の項目内容について記述する質的評価である。修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを基盤に構成されている。

(5) Interprofessional 臨地実習の実施と分析

平成 20 年 8 月、複数の保健医療福祉専門学生における相互作用を基盤とした意識変

化と行動変容を基にセミナー (演習) 形式をさらに発展させた IP 臨地実習を実施した。

研究目的として、IP 臨地実習が参加学生の意識の変化に、どういった効果をもたらすのかを一般アンケートによって検証することにある。そのため、その後 9 月に実施された IP 臨地実習に参加していない学生の対照比較群 (首都大学東京の 3 年次の学生 76 名) へのアンケート調査との比較から、IP 臨地実習の教育的効果について分析を加える。

さらに IP 臨地実習の前後、2 回実施される IPW-Aptitude Test の信頼性と妥当性を検討し、一般アンケートに加えて、IP 臨地実習の効果について分析を行った。

IP 臨地実習は、首都大学東京健康福祉学部の看護、理学療法、作業療法、放射線の 4 学科 3 年次の学生 21 名と、自治医科大学医学部医学科の 6 年次生 1 名、慶応義塾大学薬学部薬学科 3 年次の学生 3 名の混成による 4 グループを編成し、合同で 5 日間の病院・施設実習 (IP 臨地実習) を実施した。IP 臨地実習の実施前後には、参加学生に対する一般的アンケートならびに今回開発された IPW-Aptitude Test が、IP 臨地実習の前後 2 回、実施された。

その結果、一般アンケートにおいて、不参加学生の対照群とは「自己の専門に対する意欲 ($p < 0.01$)」「他の専門に対する理解と関心 ($p < 0.01$)」で有意差がみられ、「自己表現 ($p < 0.05$)」「修得した知識 ($p < 0.05$)」ではやや複雑な結果を示したが、他の専門職とのグループワークを体験した自信と満足感が将来への期待と正相関を示した。IPW-Aptitude Test では、その信頼性と妥当性が確認され、一般アンケートでは得ることが困難であった「他の専門に対する学習の程度と理解」および「対象者中心の考え方」「対象における自己の専門役割」などを明らかに

することが可能となった。

保健医療福祉系大学において IPE が定着するための条件設定としては、IP 臨地実習を通じて多くの課題が挙げられたが、まず、教員の質的担保としての意識改革の必要性、教育予算と時間の不足とくに専門教科以外の実習を行うための人員不足、カリキュラム構成を根本から考え直す作業、教育効果の検討などが挙げられた。

とくに縦割りの専門教育の障害として、教員間のコミュニケーション不足、専門職の文化・背景の違い、無意味な競争意識と排他的傾向、専門用語の違いなどが挙げられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- 1) 大嶋伸雄, 高屋敷明由美, 藤井博之: 英国における保健医療福祉専門職連携教育 (IPE) の発展と現状, リハビリテーション連携科学, 18(1): 16-26, 2007. (査読有)
- 2) 大嶋伸雄: 作業療法教育における Inter-professional Education (IPE), 作業療法ジャーナル, 41(10):971-979, 2007. (査読無)
- 3) 大嶋伸雄: 英国における保健医療福祉の連携教育, 保健医療福祉連携教育研究会誌, 第 2 号, 2007. (査読有)
- 4) 大嶋伸雄: 保健医療福祉系大学におけるインタープロフェッショナル教育 (IPE) の認知度と今後の発展性に関する全国調査. 保健医療福祉連携 1 (1):27-31, 2009. (査読有)
- 5) 井上 薫, 谷村厚子, 大嶋伸雄, 菊池恵美子, 横井郁子, 飯塚哲子, 妹尾淳史, 山田拓実, 金子誠喜, 木下正信, 繁田雅弘: 模擬患者との連携による作業療法学生に対

する Modified Objective Structured Clinical Examination; m-OSCE の導入とその課題. 保健医療福祉連携 1 (1): 11-18, 2009. (査読有)

[学会発表] (計 8 件)

【国際学会発表】

- ① Kaoru Inoue, Nobuo Oshima, Chihiro Sasaki, Atsuko Tanimura, Hiroyuki Fujii: The actual situation of educational projects involved with simulated patients in schools of Occupational Therapy in Japan, An International Association for Medical Education in Europe Conference 2008; AMEE 2008 Final Abstract Book: 45-46, 2008. (平成 20 年 9 月 2 日, チェコ共和国, プラハ市)
- ② Nobuo Oshima, Kaoru Inoue, Chihiro Sasaki, Hiroyuki Fujii, Masanobu Kinoshita, Masahiro Shigeta: A study of effectiveness on Web-Based Resource Learning with Inter-professional Education(IPE) at university in health care and welfare, an International Association for Medical Education in Europe Conference 2008; AMEE 2008 Final Abstract Book: 130, 2008. (平成 20 年 9 月 2 日, チェコ共和国, プラハ市)
- ③ Satoko Ishikawa, Yoshihiro Ehara, Yoshihiro Abe, Shiro Iijima, Noriko Fukushima, Shizuko Kobayashi, Nobuo Oshima, Masanobu Kinoshita, Miwako Matsutani, Osamu Fukushima: Collaboration workshop for students learning medical care: Trial of interprofessional education in Japan, All Together Better Health IV Conference; ATBH Final Programme and Abstract Book: 212, 2008. (平成 20 年 6 月 3 日, ス

ウェーデン, ストックホルム市)

④ Nobuo Oshima, Masanobu Kinoshita, Tetsuko Iizuka, Takumi Yamada, Atsushi Senoo, Kaoru Inoue, Atsuko Tanimura, Yuko Ito, Masahiro Shigeta, Satoko Ishikawa, Yoshihiro Ehara, Shizuko Kobayashi, Osamu Fukushima: A survey on the recognition and the potential for development of interprofessional education (IPE) at universities in the areas of health care and welfare in Japan, All Together Better Health IV Conference; ATBH Final Programme and Abstract Book: 54, 2008.
(平成 20 年 6 月 3 日, スウェーデン, ストックホルム市)

【国内学会発表】

- ① 井上 薫, 谷村厚子, 大嶋伸雄, 伊藤祐子, 小林法一, 宮本礼子, 菊池恵美子, 山田孝, 飯塚哲子, 山田拓実, 妹尾淳史, 木下正信, 繁田雅弘: 模擬患者に対する教育プログラムに関する検討. 作業療法学生の学内実技実習および OSCE 終了後の模擬患者の意見より. 日本保健科学学会誌 特別号 11: 18, 2008. (平成 20 年 8 月 13 日, 東京都)
- ② 下岡隆之, 藤井博之, 坂本麻衣, 山田 孝, 大嶋伸雄: 多職種から見た各専門職種の専門性分類. 日本保健科学学会誌 特別号 11: 14, 2008. (平成 20 年 8 月 13 日, 東京都)
- ③ 木下正信, 飯塚哲子, 大嶋伸雄, 井上 薫, 山田拓実, 妹尾淳史, 伊藤祐子, 谷村厚子, 繁田雅弘: 医療系-保健医療福祉-大学におけるインタープロフェッショナル教育 (IPE) の現状-アンケート調査結果から-. 日本保健科学学会誌 特別号 11: 15, 2008. (平成 20 年 8 月 13 日, 東京都)
- ④ 谷村厚子, 井上 薫, 伊藤祐子, 大嶋伸雄, 宮本礼子, 菊池恵美子, 山田拓実, 妹尾淳史, 金子誠喜: コミュニケーションスキル

向上を目的とした模擬患者参加学内実習の効果. 日本保健科学学会誌 特別号 11: 17, 2008.

(平成 20 年 8 月 13 日, 東京都)

[図書] (計 2 件)

① 藤井博之, 和田忠志, 大嶋伸雄: 保健医療福祉キーワード事典: 42-51, 115-125, 医学書院, 東京, 2008.

② 佐藤智, 大嶋伸雄, 他: 明日の在宅医療 第 6 巻 在宅医療と人材養成・人材確保: 27-51, 中央法規, 東京, 2008.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大嶋 伸雄 (OSHIMA NOBUO)

首都大学東京・人間健康科学研究科・准教授
研究者番号: 30315709

(2) 研究分担者

木下 正信 (KINOSHITA MASANOBU)

首都大学東京・人間健康科学研究科・教授
研究者番号: 10204950

妹尾 淳史 (SENOO ATUSHI)

首都大学東京・人間健康科学研究科・准教授
研究者番号: 00299992

井上 薫 (INOUE KAORU)

首都大学東京・人間健康科学研究科・准教授
研究者番号: 90259143

山田 拓実 (YAMADA TAKUMI)

首都大学東京・人間健康科学研究科・准教授
研究者番号: 30315759

谷村 厚子 (TANIMURA ATSUKO)

首都大学東京・人間健康科学研究科・助教
研究者番号: 70315761

(3) 連携研究者

福島 統 (FUKUSHIMA OSAMU)

東京慈恵会医科大学・医学教育センター・教授

研究者番号: 60173332